



株式会社荏原製作所

2025 年 12 月期 第 3 四半期決算説明会

2025 年 11 月 13 日

イベント概要

| | |
|----------|---|
| [企業名] | 株式会社荏原製作所 |
| [企業 ID] | 6361 |
| [イベント言語] | JPN |
| [イベント種類] | 決算説明会 |
| [イベント名] | 2025 年 12 月期 第 3 四半期決算説明会 |
| [決算期] | 2025 年度 第 3 四半期 |
| [日程] | 2025 年 11 月 13 日 |
| [時間] | 17:30 – 18:34 (合計：64 分、登壇：25 分、質疑応答：39 分) |
| [開催場所] | インターネット配信 |
| [登壇者] | 2 名 執行役 CFO（経営企画／財務／会計／税務担当）兼 経営企画統括部長 兼 荏原（中国）有限公司董事長 湊田 徹也（以下、湊田） IR・広報統括部長 落合 恒毅（以下、落合） |



2025年12月期 第3四半期 決算説明会資料 荏原 (6361)

2025年11月13日

Looking ahead,
going beyond expectations
Ahead Beyond

株式会社 荏原製作所

落合：お待たせいたしました。本日はご多用のところ、株式会社荏原製作所、2025年12月期第3四半期決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、ただ今より会を始めさせていただきます。

本日の15時30分に、決算関連の書類を東証のプラットフォームならびに当社ホームページに開示しております。そちらもご覧いただきながらご参加いただきますようお願い申し上げます。

私どもの出席者をご紹介します。CFO、**淵田**徹也、IR担当執行役でございます。

淵田：CFOの**淵田**です。よろしくお願いいたします。

落合：司会は、IR・広報統括部、**落合**が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

| | | | |
|-----------------------------|------------|---------------------------|------------|
| 当決算におけるポイント | P3 | 4. トピックス | |
| 1. FY25 1-3Q連結決算サマリ | | ・荏原グループの中期的な投資戦略 | P23 |
| ・連結業績 | P5 | ・2035年にありたい事業ポートフォリオのイメージ | P24 |
| ・セグメント別 | P6 | ・建築・産業セグメントのM&A戦略 | P25 |
| ・営業利益増減分析 | P7 | | |
| ・地域別売上収益 | P8 | 5. 補足資料 | |
| 2. FY25 1-3Qセグメント別業績 | | ・連結業績予想 | P28 |
| ・建築・産業 | P10 | ・受注高 | P29 |
| ・エネルギー | P11 | ・売上収益 | P30 |
| ・インフラ | P12 | ・営業利益 | P31 |
| ・環境 | P13 | ・受注残高 | P32 |
| ・精密・電子 | P14 | ・地域別売上収益 | P33 |
| 3. FY25 業績予想 | | ・サービス&サポート(S&S)売上収益 | P34 |
| ・セグメント別事業環境認識 | P18 | ・貸借対照表 | P35 |
| ・連結業績 | P19 | ・キャッシュ・フロー | P36 |
| ・セグメント別 | P20 | ・資本的支出、減価償却費、研究開発費 | P37 |
| ・営業利益増減分析 | P21 | ・ESG Topics | P38 |

■ 略語の説明
 ・ FY：会計年度（例「FY25」は2025年12月期会計年度）
 ・ 「1Q」は第1四半期の数値、「1-2Q」、「1-3Q」、「1-4Q」はそれぞれ第1四半期から各四半期末までの累計値であることを示している
 ■ 本資料で示す財務数値はIFRSベースで記載している

本日のスケジュールでございますが、決算概要を澁田より説明させていただき、その後に皆様からのご質問をお受けいたします。終了時刻は18時30分を予定しております。また、本日の会議の内容は、Zoomのオンデマンドにて聞くことができます。詳細は、会議終了後にメールにてご連絡いたします。

それでは、澁田より説明に入らせていただきます。

FY25 1-3Q 業績

| | 実績 | 前年同期比 |
|-----------------------|----------|--------------------|
| 受注高 | 6,801 億円 | +365 億円 +5.7% ↗ |
| 売上収益 | 6,635 億円 | +592 億円 +9.8% ↗ |
| 営業利益 | 695 億円 | +97 億円 +16.2% ↗ |
| 営業利益率 | 10.5% | +0.6pts |
| 親会社の所有者に 帰属する四半期利益 | 446 億円 | +36 億円 +8.9% ↗ |

↗は+5%以上、↘は-5%以上の変化、→は変化が±5%未満

FY25 通期業績予想

| | 計画 | 前期比 | 旧計画比* |
|----------------------|----------|---------------------|--------------------|
| 受注高 | 9,440 億円 | +834 億円 +9.7% ↗ | +40 億円 +0.4% → |
| 売上収益 | 9,270 億円 | +603 億円 +7.0% ↗ | +270 億円 +3.0% → |
| 営業利益 | 1,100 億円 | +120 億円 +12.3% ↗ | +75 億円 +7.3% ↗ |
| 営業利益率 | 11.9% | +0.6pts | +0.5pts |
| 親会社の所有者に 帰属する当期利益 | 740 億円 | +25 億円 +3.6% → | +16 億円 +2.2% → |

*2025年8月14日公表の計画値との比較

ポイント

FY25 1-3Q

業績

増減はFY24 1-3Q比

- 受注高、売上収益、営業利益、親会社の所有者に帰属する四半期利益はいずれも3Qとして過去最高を更新
- 引き続き中国市場の減速感はあるものの、売上収益は全セグメントで増収。営業利益は、環境、エネルギー、インフラの寄与に加え、建築・産業で前年同期に計上したのれんの減損損失が生じないため全社では増益

FY25

業績予想

- 通期業績予想は、全社としては受注高、売上収益、営業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益いずれも上方修正。受注高については、精密・電子と建築・産業を下方修正、環境とインフラを上方修正
- 米国の関税政策による業績への影響は2Q時点から大きく変わらず限定的

その他

- 自己株式取得枠*200億円のうち、102億円を取得済（2025年10月31日現在）

3 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved *取得期間:2025年8月20日~2025年12月23日

淵田：よろしくお祈いします。

初めに、第3四半期決算におけるポイントに関してご説明させていただきます。

当第3四半期は、受注高、売上収益、営業利益、親会社の所有者に帰属する中間利益はいずれも第3四半期としては過去最高を更新しました。

売上収益は、建築・産業、エネルギーのオイル&ガス向け、精密・電子において、中国市場の減速感を引き続きあるものの、全セグメントで増収となりました。営業利益は、環境、エネルギー、インフラが寄与したことと、建築・産業で前年同期に計上したのれんの減損損失が今期は生じないため、全社で増益となりました。

業績予想に関しては、全社については受注高、売上収益、営業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益いずれも上方修正しています。セグメントごとの受注動向には濃淡がありまして、精密・電子および建築・産業で下方に、環境とインフラは上方に修正しております。

今後のアメリカの関税政策による影響については引き続き不透明感があるものの、現時点で業績への影響は限定的と捉えております。

もう一つ、第2四半期の決算説明会でお知らせしました自己株式の取得に関しては、200億円を上限とする枠に対して、102億円まで取得が進んでいます。おおむね計画どおりと見ています。

以上が決算の概要になります。

- 1. FY25 1-3Q 連結決算サマリ**
2. FY25 1-3Q セグメント別業績
3. FY25 業績予想
4. トピックス
5. 補足資料

4 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

それでは、詳細の説明に入ります。

| (単位：億円) | FY24 1-3Q 実績 a | FY25 1-3Q 実績 b | 前年同期比 | |
|------------------------|-------------------|-------------------|-----------|----------------|
| | | | 増減 b-a | 増減率 (b-a)/a |
| 受注高 | 6,436 | 6,801 | +365 | +5.7% |
| 売上収益 | 6,043 | 6,635 | +592 | +9.8% |
| 営業利益 | 598 | 695 | +97 | +16.2% |
| 営業利益率 | 9.9% | 10.5% | +0.6pts | |
| 親会社の所有者に帰属する四半期利益 | 410 | 446 | +36 | +8.9% |
| 基本的 1 株当たり四半期利益 (円) *1 | 88.87 | 96.76 | +7.90 | +8.9% |
| 為替レート*2 | | | | |
| 対米ドル (円) | 151.14 | 148.18 | -2.96 | |
| 対ユーロ (円) | 164.22 | 165.50 | +1.28 | |
| 対人民元 (円) | 20.99 | 20.53 | -0.46 | |

*1 2024年7月1日に1株を5株とする株式分割を実施。記載は株式分割後ベースに調整した数値

*2 為替レートは各四半期における期中平均レートを単純平均で表記

5 ページ目です。

第3四半期の連結業績を対前年同期の実績と比較して示しております。

受注高は 365 億円増加して 6,801 億円、売上収益は 592 億円増加して 6,635 億円、営業利益は 97 億円増加して 695 億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は 36 億円増加して 446 億円となりました。それに伴いまして、EPS についても 96.76 円と、前年同期比で増加となっております。

為替については、主に US ドルにおいて前年同期比で若干円高傾向ですので、受注高、売上収益、営業利益いずれもマイナスの影響であったと分析しています。

1. FY25 1-3Q 連結決算サマリ セグメント別



| | | FY24 1-3Q 実績 a | FY25 1-3Q 実績 b | 前年同期比 | |
|--------|-------|-------------------|-------------------|-----------|----------------|
| | | | | 増減 b-a | 増減率 (b-a)/a |
| 連結合計 | 受注高 | 6,436 | 6,801 | +365 | +5.7% |
| | 売上収益 | 6,043 | 6,635 | +592 | +9.8% |
| | 営業利益 | 598 | 695 | +97 | +16.2% |
| | 営業利益率 | 9.9% | 10.5% | +0.6pts | |
| 建築・産業 | 受注高 | 1,845 | 1,883 | +37 | +2.0% |
| | 売上収益 | 1,727 | 1,734 | +6 | +0.4% |
| | 営業利益 | 55 | 105 | +50 | +90.9% |
| | 営業利益率 | 3.2% | 6.1% | +2.9pts | |
| エネルギー | 受注高 | 1,662 | 1,509 | -152 | -9.2% |
| | 売上収益 | 1,451 | 1,593 | +141 | +9.8% |
| | 営業利益 | 153 | 170 | +17 | +11.4% |
| | 営業利益率 | 10.6% | 10.7% | +0.1pts | |
| インフラ | 受注高 | 447 | 456 | +8 | +1.9% |
| | 売上収益 | 347 | 417 | +70 | +20.2% |
| | 営業利益 | 23 | 36 | +13 | +55.9% |
| | 営業利益率 | 6.8% | 8.8% | +2.0pts | |
| 環境 | 受注高 | 631 | 933 | +302 | +47.8% |
| | 売上収益 | 592 | 648 | +56 | +9.5% |
| | 営業利益 | 51 | 72 | +20 | +40.5% |
| | 営業利益率 | 8.7% | 11.2% | +2.5pts | |
| 精密・電子 | 受注高 | 1,840 | 2,010 | +170 | +9.3% |
| | 売上収益 | 1,915 | 2,233 | +317 | +16.6% |
| | 営業利益 | 336 | 328 | -7 | -2.2% |
| | 営業利益率 | 17.6% | 14.7% | -2.9pts | |
| その他、調整 | 受注高 | 8 | 8 | -0 | |
| | 売上収益 | 8 | 9 | +0 | |
| | 営業利益 | -22 | -19 | +2 | |
| | 営業利益率 | -258.5% | -206.8% | +51.7pts | |

6 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

続いて、6 ページ目です。セグメント別の決算サマリです。

受注高は、エネルギーはオイル&ガス向けの大型案件の減少により、前年同期を下回りました。

一方で、環境が大型の延命化案件などを受注したこと、精密・電子が生成 AI 向け半導体需要の継続が強くて、これによって大きく増加しております。

全体としては、前年同期比で 365 億円の増加です。

売上収益は、全セグメント堅調で、前年同期比 592 億円の増加となっております。

営業利益は、前年同期比で 97 億円増加しております。精密を除くすべてのセグメントで増益となっております。

次ページで増減要因について説明します。

増収効果が固定費増を上回り増益



7 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

内訳です。

売上要因として、主に精密・電子、エネルギー、インフラ、環境の増収が寄与して298億円のプラス。

一方で、収益性は30億円のマイナス。

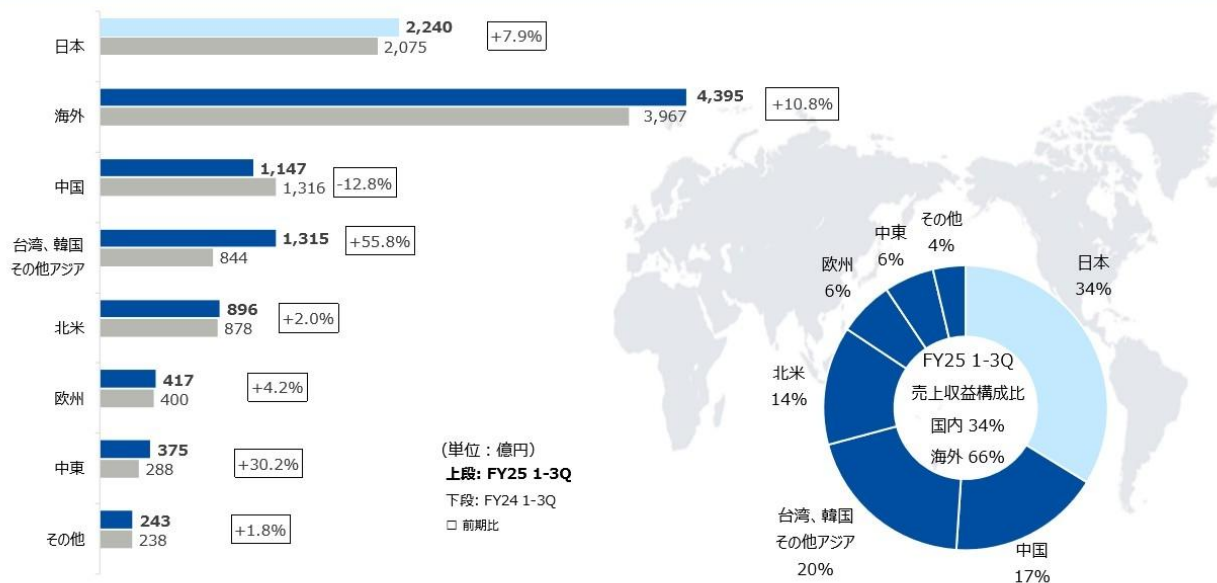
固定費については、ベースアップ等の人件費増加と減価償却費の増加、これは設備投資をしていることによるものですが、それによって192億円のマイナスとなっています。

先ほど申し上げた為替の円高要因で、16億円のマイナスと見ています。

その他、一過性の要因があります。まとめております。当期プラスの要因は、建築・産業で前年同期に計上したトルコのVansan社に係るのれんの減損損失が今期発生していないこと、それからマイナス要因は、エネルギーで前期に計上した土地の売却益がないこと、建築・産業で特定顧客に関する貸倒引当金を計上したことにより、36億円のマイナスとなっております。これは、第2四半期で説明した内容と一緒にです。

以上、営業利益の分析につきご説明しました。

地域別売上収益



※「地域別売上収益」は売上先所在地別売上収益を示す

8 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

続いて、8 ページ目です。地域別売上収益の構成です。

海外売上構成比率は、右側、円グラフの濃い青色の部分のとおり、66%となっています。第2 四半期と変わりませんが、前年同期を上回る構成比となっております。

左の棒グラフは、上段が今期の第3 四半期、9 カ月、下段が前年同期を示しております。日本国内、海外ともに、前年同期に比べて増加しています。台湾、韓国、その他アジアは、精密・電子の影響によって売上が大きく伸びています。

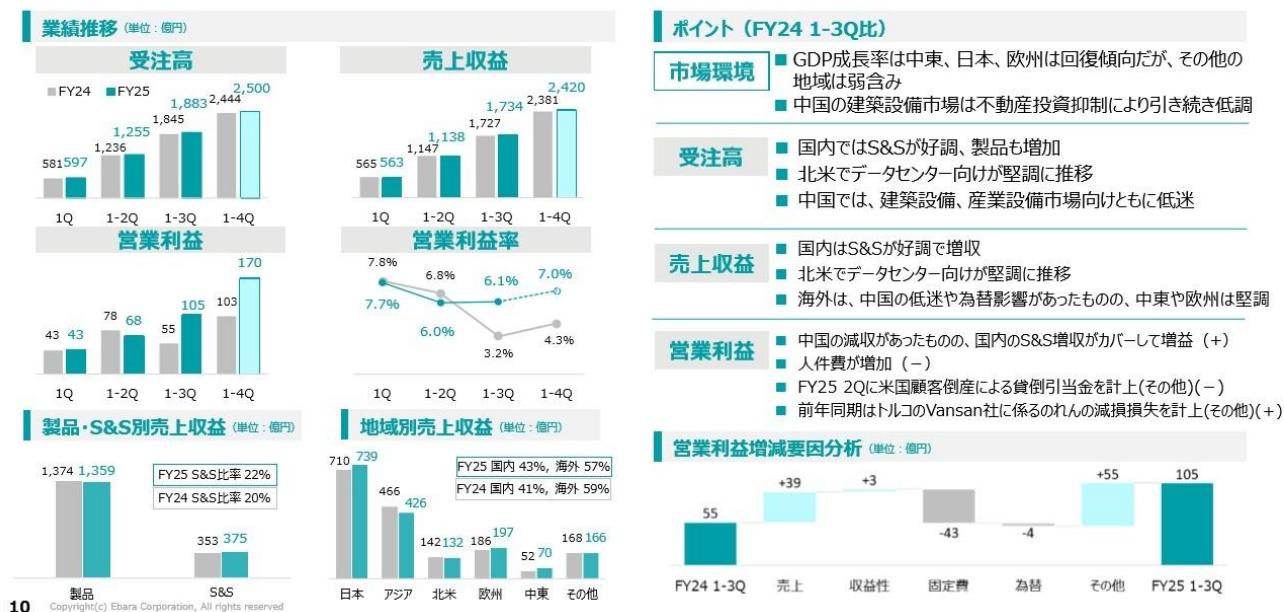
一方で、中国は、建築・産業と精密・電子の売上動向が影響して、前年同期比では減少しております。

以上が地域別売上収益の全体像です。

1. FY25 1-3Q 連結決算サマリ
- 2. FY25 1-3Q セグメント別業績**
3. FY25 業績予想
4. トピックス
5. 補足資料

これ以降は、セグメント別業績の説明です。

2. FY25 1-3Q セグメント別業績 建築・産業



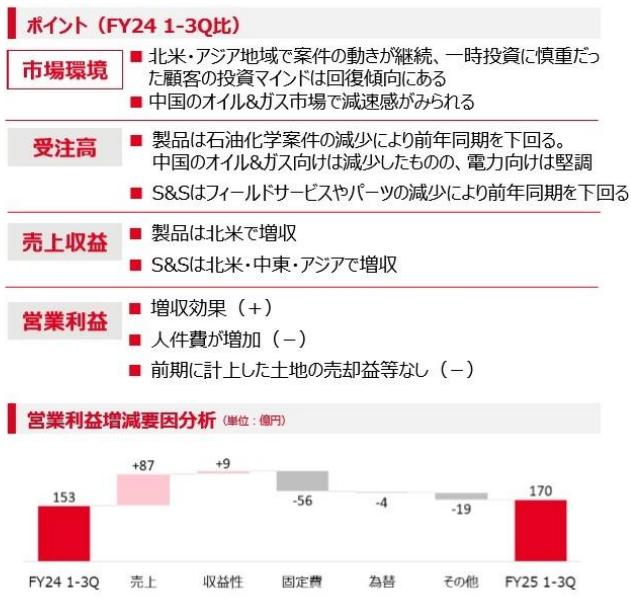
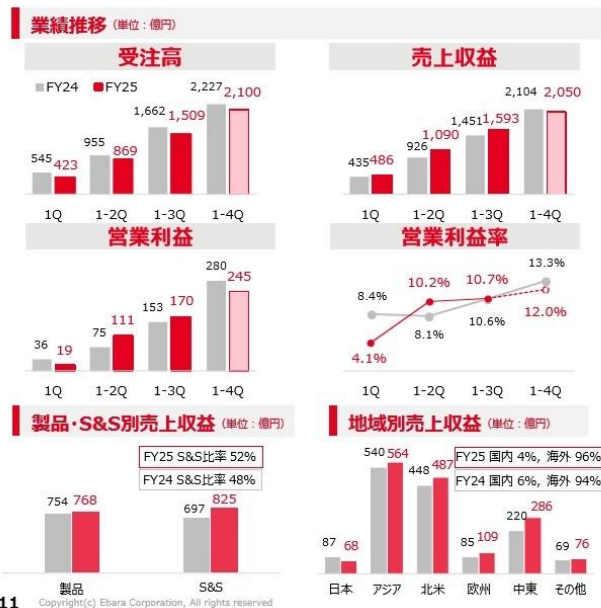
まず、10 ページ目の建築・産業です。

受注高、売上収益、営業利益いずれも前年同期を上回っております。中東、日本、欧州で GDP 成長は回復傾向です。それ以外の地域は若干弱含みとなっておりますが、そのような中で受注は海外が減少したものの、国内のサービス&サポートがカバーして、全体では増加しました。

海外の内訳は、北米でデータセンター向けポンプなどの受注が堅調に推移したことはありますが、中国では減少しております。

売上収益は、国内ではサービス&サポートが好調で増収。海外では、中国の建築設備市場が低迷しておりまして、一方で北米やヨーロッパ、欧州は堅調でした。

営業利益は、中国の減収があったのですが、日本国内が好調で、人件費等の固定費が増加したものの、昨年度の一過性の要因もあって、当期は増益となっております。第2四半期に計上した貸倒引当金や、前年同期を計上したトルコの Vansan 社の影響を除きますと、営業利益はほぼ横ばいの結果と捉えております。



11 ページ目です。エネルギーセグメントです。

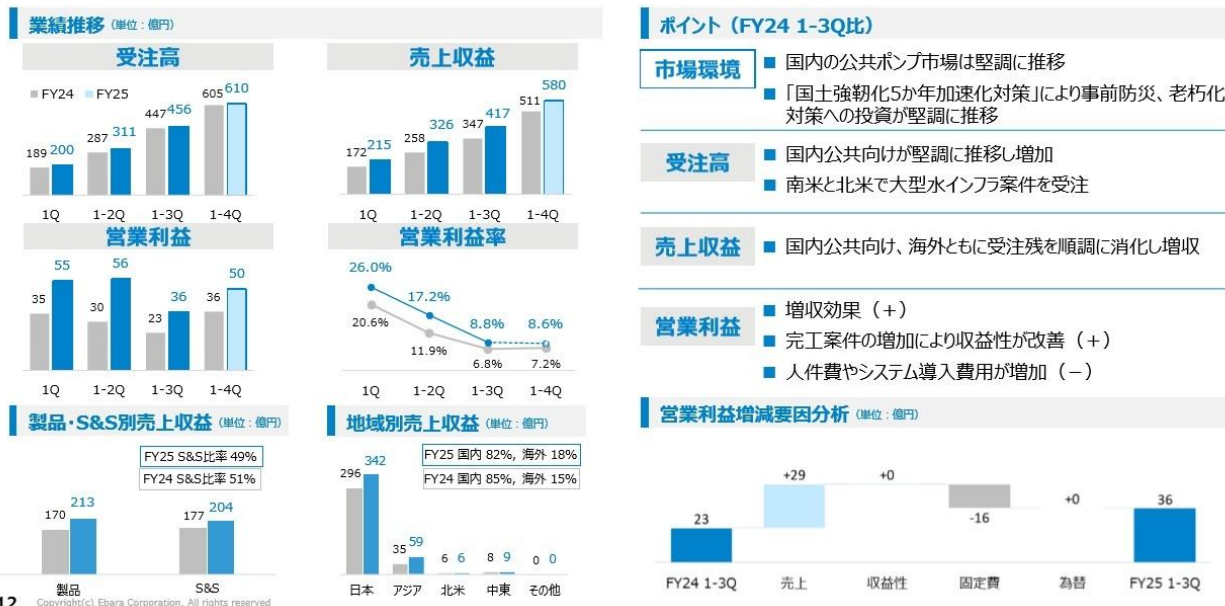
受注高は前年同期比で減少、売上収益、営業利益は増加です。

市場環境については、ダウンストリーム市場の石油化学案件および北米の LNG 案件が、アメリカの追加関税の動向がある程度明らかになったことによって、一時投資に慎重だった顧客の投資マインドが回復傾向にあると捉えています。

受注高は、製品について大型案件の減少によって前年同期を下回っておりますが、中国における電力向けは堅調に推移しています。サービス&サポートについては、フィールドサービスやパーツの受注が減少したことによって、前年同期を下回っております。

売上収益は、製品については北米を中心に増加し、サービス&サポートは北米・中東アジアで増加しております。

営業利益は、増収効果が固定費の増加を上回って増益となっております。



12 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

12 ページ目のインフラセグメントです。

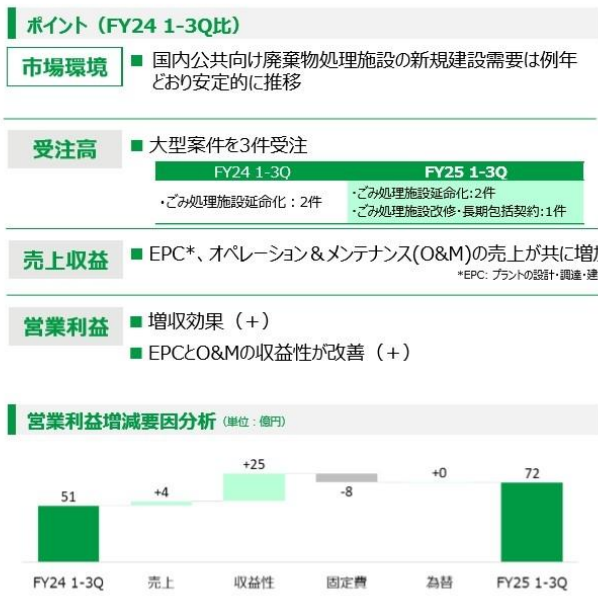
受注高、売上収益、営業利益いずれも前年同期を上回っております。

国内では「国土強靱化5か年加速化対策」によって、ポンプ設備の更新、補修の需要が引き続き堅調に推移しております。

国内では大型案件を複数受注したほか、海外では南米、北米で大型水インフラ案件を受注しております。

売上収益は、受注残の消化が堅調に進んで、国内、海外とも前年同期を上回っています。

営業利益は、増収の影響によって前年同期を上回っています。



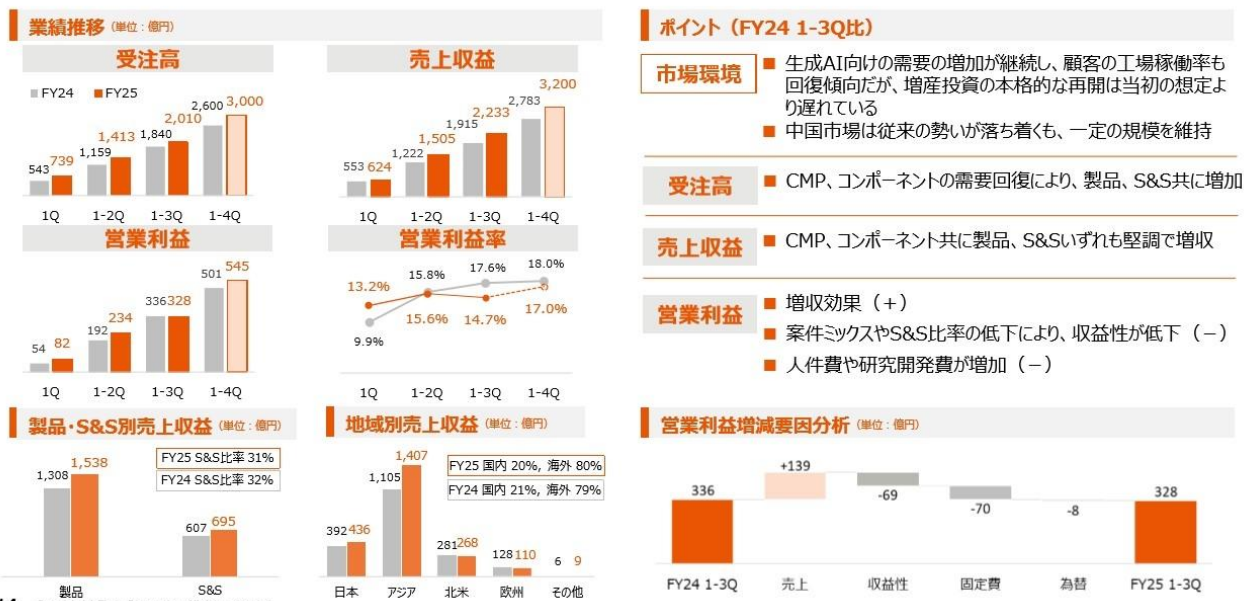
環境です。

受注高、売上収益、営業利益いずれも前年同期を上回っています。

受注高は、延命化および長期包括の大型案件を3件受注したことによって、前年同期を大きく上回っています。

売上収益は、EPCとオペレーション&メンテナンスの売上がともに増加しております。

営業利益は、それぞれEPCとオペレーション&メンテナンスの収益性が改善したこともあって、増益となっています。



14 ページ目の精密・電子セグメントです。

受注高、売上収益は前年同期比で増加、営業利益は微減となりました。

半導体市場は生成 AI 向け需要が継続して、グローバル大手の顧客においては、一部の工場稼働率に改善が見られましたが、増産投資の本格的な再開は当初見込んでいた想定よりも遅れている状況です。また、中国市場は、従来の勢いから落ち着きは見られているものの、一定の規模を維持しております。

受注高は、CMP、コンポーネント両市場で、需要回復によって、製品、サービス&サポートともに前年比増加となっています。

売上収益についても、CMP、コンポーネントともに、製品、サービス&サポートいずれも堅調で増収となっております。

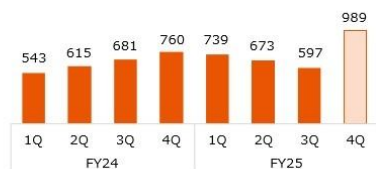
営業利益は、増収の効果がありましたが、案件のミックスやサービス&サポート比率の低下による収益性の低下や固定費の増加により、若干の減益となっております。

2. FY25 1-3Q セグメント別業績
精密・電子 業績推移 (四半期)



受注高 (単位: 億円)

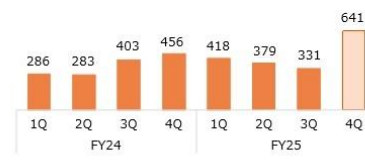
精密・電子



コンポーネント

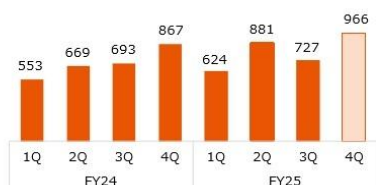


CMP

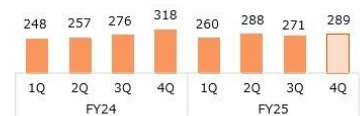


売上収益 (単位: 億円)

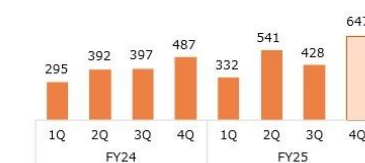
精密・電子



コンポーネント



CMP



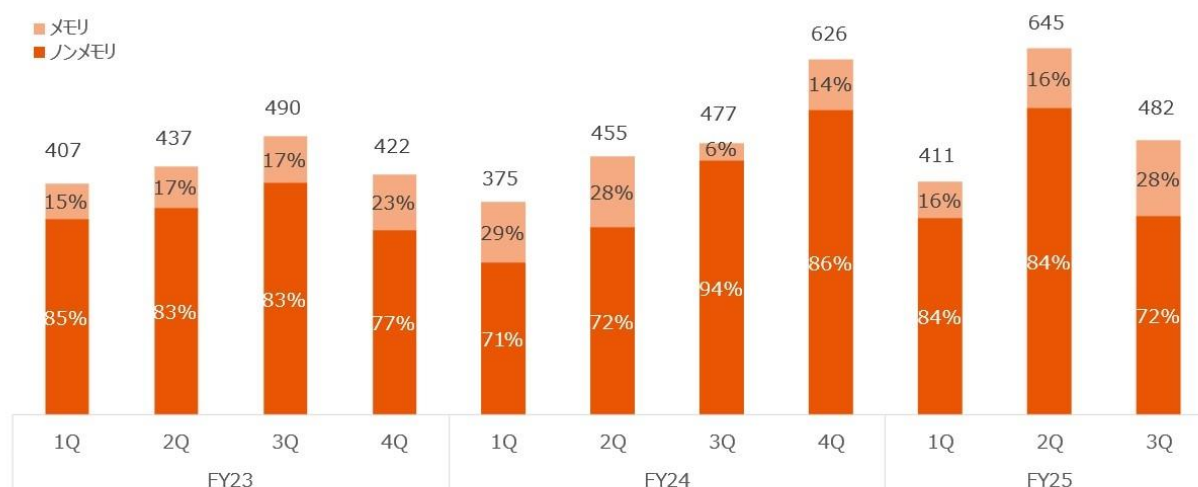
15 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

15 ページ目に、受注高と売上収益について、精密・電子全体とコンポーネント、CMP の単独四半期推移を示しております。

第3四半期の受注については先ほど申し上げましたとおり、増産投資の本格的な再開が当初の想定より遅れていて、そのずれもあって4Qでは増加を見込んでおります。

売上収益については、CMPで遅れていた売上案件の検収予定もあって、第4四半期での計上が進む見通しです。

売上収益（単位：億円）



*メモリ、ノンメモリの区分は社内定義による

16 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

精密・電子セグメントの四半期の売上推移、特に製品のうちメモリとノンメモリの構成比を示しています。

昨年後半から当期の前半にかけて、ロジック、ファウンドリを中心としたグローバル顧客の需要回復があって、ノンメモリの比率が上昇していました。

一方で、メモリについては、下期から回復してきています。第3四半期では、メモリ比率が28%となっています。一部HBM向けを含むDRAM需要の回復によるものです。

第3四半期の業績に関する説明は以上となっております。

1. FY25 1-3Q 連結決算サマリ
2. FY25 1-3Q セグメント別業績
- 3. FY25 業績予想**
4. トピックス
5. 補足資料

続いて、通期業績予想についてご説明します。

| セグメント | 主な対面市場 | 市場別・地域別トレンド | 当社の市場見立て FY25 (1年間) *1 |
|-------|-----------------------|--|--|
| 建築・産業 | 建築設備・産業設備 | <ul style="list-style-type: none"> 欧州は、建設費、労働コストの上昇により設備投資が低迷 中国は、建築設備、産業市場が低迷 米国は、関税政策等の影響が見込まれるが、データセンター需要は増加見込み | 海外 2%台成長見込み |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 建築設備市場は、建設コストの高止まりや人手不足により工事の先送り等は継続 産業市場は、設備投資の需要が継続 | 国内 横ばい |
| エネルギー | 石油・ガス 新エネルギー 電力 | <ul style="list-style-type: none"> 製品分野は、石油化学市場は北米・アジア・中東地域を中心に需要が堅調に推移したものの、中国では減速感がみられる。一方で、LNG市場は特に北米で顧客の投資マインドが回復傾向にあり、堅調な成長が期待される。 サービス分野は、メンテナンス需要は通常レベルに戻る見込み 脱炭素関連市場は、アンモニア、CCUS等を中心に需要は拡大見込み 電力市場は、国内やアジアを中心にアンモニア転換プロジェクトの計画が増加見込み | グローバル LNG：5%台成長見込み エチレン：4%台成長見込み |
| インフラ | 水インフラ 換気 | <ul style="list-style-type: none"> 国土強靱化計画などにより安定的に推移 | 国内 横ばい |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 人口増による水需要はアジアを中心に堅調 地球温暖化・異常気象により世界各地で洪水被害が年々増加し、河川排水ポンプは一定の需要が継続 | 海外 4%台成長見込み |
| 環境 | 固形廃棄物処理 | <ul style="list-style-type: none"> 公共向け廃棄物処理施設の新規建設需要は、概ね例年どおり推移 老朽化施設の延命化需要が増加 | 国内 横ばい |
| 精密・電子 | 半導体製造 | <ul style="list-style-type: none"> 市場全般としては、長期的に生成AI関連を中心に拡大基調を想定 顧客の投資はデバイスタイプ・経営状況によりばらつきがある | グローバル WFE*2：4%台成長見込み |

18 ページ目です。業績予想の前提となるセグメント別の事業環境の認識についてです。

成長率など、当社の今期の市場見立てとして3カ月前から大きな変更はありませんが、一部の地域や市場などでは変化が見られる状況です。

まず、精密・電子です。生成AI向け半導体の需要は引き続き拡大基調です。顧客の投資は、デバイスタイプやお客様各社の経営状況によりばらつきが見られ、市場全体の成長率としては緩やかに推移するものと見ております。

また、エネルギーにおいては、製品分野の市場は全体として堅調に推移していますが、中国ではやや減速感が見られます。一方で、LNG市場は特に北米で関税政策の動向が明らかになったことで、顧客の投資マインドが回復傾向にあります。

3. FY25 業績予想
連結業績



全社の通期業績予想を上方修正

| (単位：億円) 発表日(年/月/日) | 1-4Q | | | | | | |
|-----------------------|--------------|---------------------------|--------------------------|-----------|----------------|-----------|----------------|
| | FY24 実績 a | FY25 旧計画 25/08/14 b | FY25 計画 25/11/13 c | 前期比 | | 旧計画比 | |
| | | | | 増減 c-a | 増減率 (c-a)/a | 増減 c-b | 増減率 (c-b)/b |
| 受注高 | 8,605 | 9,400 | 9,440 | +834 | +9.7% | +40 | +0.4% |
| 売上収益 | 8,666 | 9,000 | 9,270 | +603 | +7.0% | +270 | +3.0% |
| 営業利益 | 979 | 1,025 | 1,100 | +120 | +12.3% | +75 | +7.3% |
| 営業利益率 | 11.3% | 11.4% | 11.9% | +0.6pts | - | +0.5pts | - |
| 親会社の所有者に帰属する当期利益 | 714 | 724 | 740 | +25 | +3.6% | +16 | +2.2% |
| ROIC | 12.2% | 11.6% | 12.4% | +0.2pts | - | +0.8pts | - |
| ROE | 16.2% | 15.1% | 15.4% | -0.8pts | - | +0.3pts | - |
| 基本的 1株当たり当期利益 (円) *1 | 154.62 | 156.72 | 160.25 | +5.63 | +1.4% | +3.53 | +2.2% |
| 1株当たり年間配当金 (円) *1 | 55.0 | 56.0 | 56.0 | +1.0 | - | - | - |
| 為替レート*2 | | | | | | | |
| 対米ドル (円) | 151.41 | 145.00 | 145.00 | | | - | - |
| 対ユーロ (円) | 163.80 | 160.00 | 160.00 | | | - | - |
| 対人民元 (円) | 21.04 | 20.00 | 20.00 | | | - | - |

*1 2024年7月1日に1株を5株とする株式分割を実施。記載は株式分割後ベースに調整した数値

*2 為替レート：FY24は四半期毎の期中平均レート実績を単純平均した値で表記。25/11/13発表のFY25は、4Qの想定為替レートを表記

通期の業績予想です。

先ほど申し上げた事業環境の認識、第3四半期までの業績進捗を踏まえまして、全社の受注から親会社所有者に帰属する当期利益まで、いずれの項目も上方修正しております。

3. FY25 業績予想 セグメント別



| (単位:億円) 発表日(年/月/日) | | FY24 実績 a | FY25 旧計画 25/08/14 b | FY25 計画 25/11/13 c | 1-4Q | | | |
|-----------------------|-------|--------------|---------------------------|--------------------------|-----------|----------------|-----------|----------------|
| | | | | | 前期比 | | 旧計画比 | |
| | | | | | 増減 c-a | 増減率 (c-a)/a | 増減 c-b | 増減率 (c-b)/b |
| 連結合計 | 受注高 | 8,605 | 9,400 | 9,440 | +834 | +9.7% | +40 | +0.4% |
| | 売上収益 | 8,666 | 9,000 | 9,270 | +603 | +7.0% | +270 | +3.0% |
| | 営業利益 | 979 | 1,025 | 1,100 | +120 | +12.3% | +75 | +7.3% |
| | 営業利益率 | 11.3% | 11.4% | 11.9% | +0.6pts | | +0.5pts | |
| 建築・産業 | 受注高 | 2,444 | 2,550 | 2,500 | +55 | +2.3% | -50 | -2.0% |
| | 売上収益 | 2,381 | 2,420 | 2,420 | +38 | +1.6% | - | - |
| | 営業利益 | 103 | 170 | 170 | +66 | +64.4% | - | - |
| | 営業利益率 | 4.3% | 7.0% | 7.0% | +2.7pts | | - | - |
| エネルギー | 受注高 | 2,227 | 2,100 | 2,100 | -127 | -5.7% | - | - |
| | 売上収益 | 2,104 | 2,050 | 2,050 | -54 | -2.6% | - | - |
| | 営業利益 | 280 | 245 | 245 | -35 | -12.5% | - | - |
| | 営業利益率 | 13.3% | 12.0% | 12.0% | -1.3pts | | - | - |
| インフラ | 受注高 | 605 | 560 | 610 | +4 | +0.7% | +50 | +8.9% |
| | 売上収益 | 511 | 580 | 580 | +68 | +13.5% | - | - |
| | 営業利益 | 36 | 50 | 50 | +13 | +35.2% | - | - |
| | 営業利益率 | 7.2% | 8.6% | 8.6% | +1.4pts | | - | - |
| 環境 | 受注高 | 715 | 970 | 1,200 | +484 | +67.6% | +230 | +23.7% |
| | 売上収益 | 874 | 930 | 1,000 | +125 | +14.4% | +70 | +7.5% |
| | 営業利益 | 84 | 75 | 120 | +35 | +42.1% | +45 | +60.0% |
| | 営業利益率 | 9.7% | 8.1% | 12.0% | +2.3pts | | +3.9pts | |
| 精密・電子 | 受注高 | 2,600 | 3,200 | 3,000 | +399 | +15.4% | -200 | -6.3% |
| | 売上収益 | 2,783 | 3,000 | 3,200 | +416 | +15.0% | +200 | +6.7% |
| | 営業利益 | 501 | 510 | 545 | +43 | +8.7% | +35 | +6.9% |
| | 営業利益率 | 18.0% | 17.0% | 17.0% | -1.0pts | | - | - |
| その他、調整 | 受注高 | 12 | 20 | 30 | +17 | +145.9% | +10 | |
| | 売上収益 | 11 | 20 | 20 | +8 | +79.2% | - | |
| | 営業利益 | -26 | -25 | -30 | -3 | - | -5 | |
| | 営業利益率 | -239.5% | -125.0% | -150.0% | +89.5pts | | -25.0pts | |

20 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

セグメント別の業績見通しです。

受注高については、精密・電子は、市場回復が当初の想定より遅れていることによって 200 億円
の下方修正、建築・産業は、中国市場の減速を受けて 50 億円の下方修正、環境は、大型案件の受
注を見込んで 230 億円の上方修正、インフラは、堅調な受注により 50 億円の上方修正としており
ます。

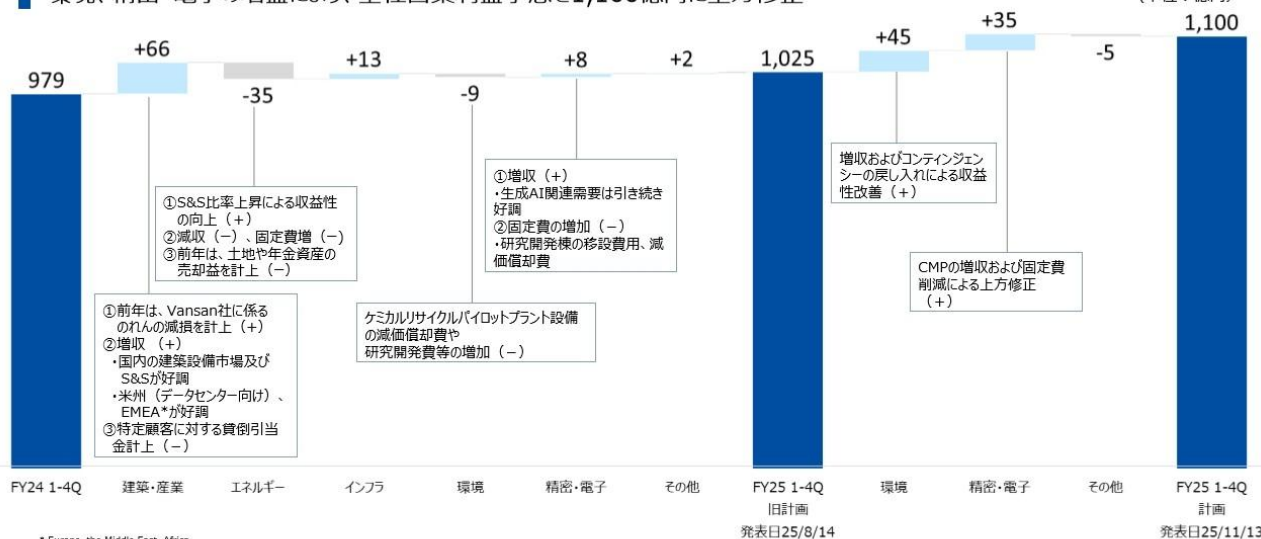
売上収益、営業利益については、第 3 四半期までの進捗と第 4 四半期の着地見通しを踏まえて、精
密・電子と環境をそれぞれ上方修正しております。

3. FY25 業績予想 営業利益増減分析



環境、精密・電子の増益により、全社営業利益予想を1,100億円に上方修正

(単位：億円)



営業利益の上方修正について、詳細をご説明します。

全社営業利益予想の上方修正について、左端の前期実績の 979 億円から、前回計画でお示した 1,025 億円を経て、今回上方修正した 1,100 億円までの利益増減要因を示したグラフになります。

前回計画からの変更としては、環境で、工事の進捗による売上の増加とコンティンジェンシー等で見込んでいた費用の戻し入れによって 45 億円の上方修正、精密・電子で、CMP の売上増加と固定費削減により 35 億円の上方修正、その他でコーポレート関連費用の修正により 5 億円の下方修正を行っております。

1. FY25 1-3Q 連結決算サマリ
2. FY25 1-3Q セグメント別業績
3. FY25 業績予想
- 4. トピックス**
5. 補足資料

22 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

トピックスです。

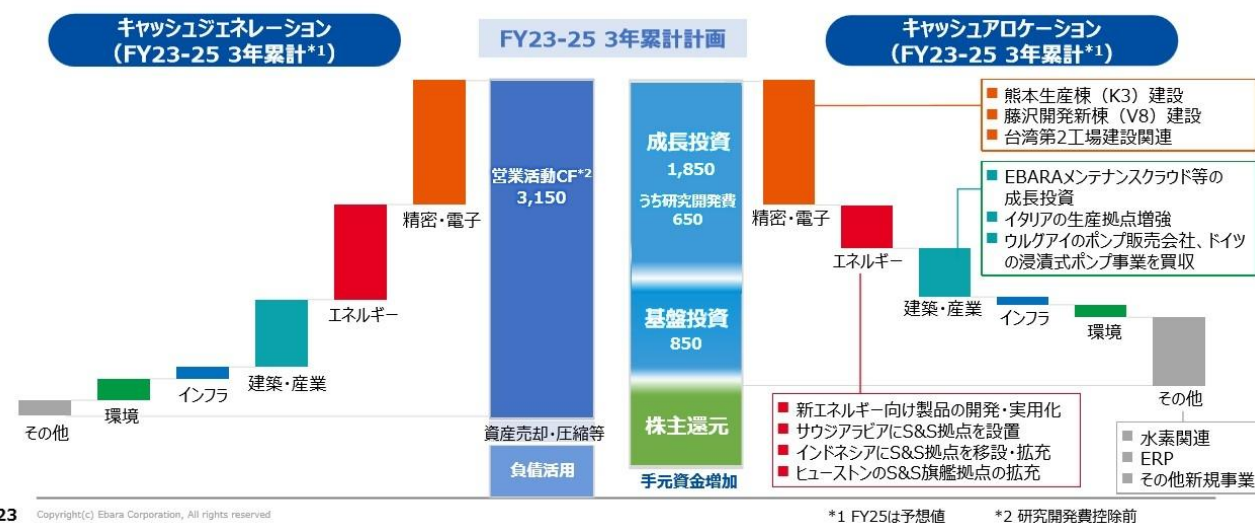
昨日 11 月 12 日に、建築・産業セグメントの M&A を 1 件発表しました。この機に、全社の投資戦略と建築・産業の M&A の戦略について改めてご説明したいと思います。

4.トピックス

荏原グループの中期的な投資戦略



- E-Plan2025では、成長事業の中でも特に大きな成長が期待できる精密・電子において、生産能力の増強や先端半導体製造に向けた研究開発、先行設備投資を積極的に展開
- エネルギーでは、S&S拠点の能力拡充や配置の最適化を実施。新エネルギー向けに、H2コンプレッサやアンモニアキャンドモータポンプを開発し実用化
- 建築・産業においては、製品の付加価値向上や収益性・効率性の改善を目的とした、M&Aやソリューションビジネスへの投資を展開



23 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

こちらのスライドには、中期経営計画 E-Plan2025 の3年間のキャッシュアロケーション、セグメントごとのキャッシュジェネレーションとキャッシュアロケーションのイメージを示しています。

E-Plan2025 では、将来の成長を見据えた戦略的投資を重視しています。その中でも特に大きな成長が見込まれる、期待できる精密・電子において、生産能力の増強や先端半導体製造に向けた研究開発、今後の需要を見据えた設備投資を積極的かつ優先的に展開してきました。

エネルギーでは、S&S 拠点の能力拡充や統廃合を通じた最適化を進めるとともに、今後の新エネルギー市場向けに、H2 コンプレッサやアンモニアキャンドモータポンプの開発、実用化を推進して、次の成長に向けた布石を打っております。

建築・産業では、製品の付加価値向上や収益性・効率性の改善を目的とした、M&A やソリューションビジネスへの投資を展開してきました。

4.トピックス

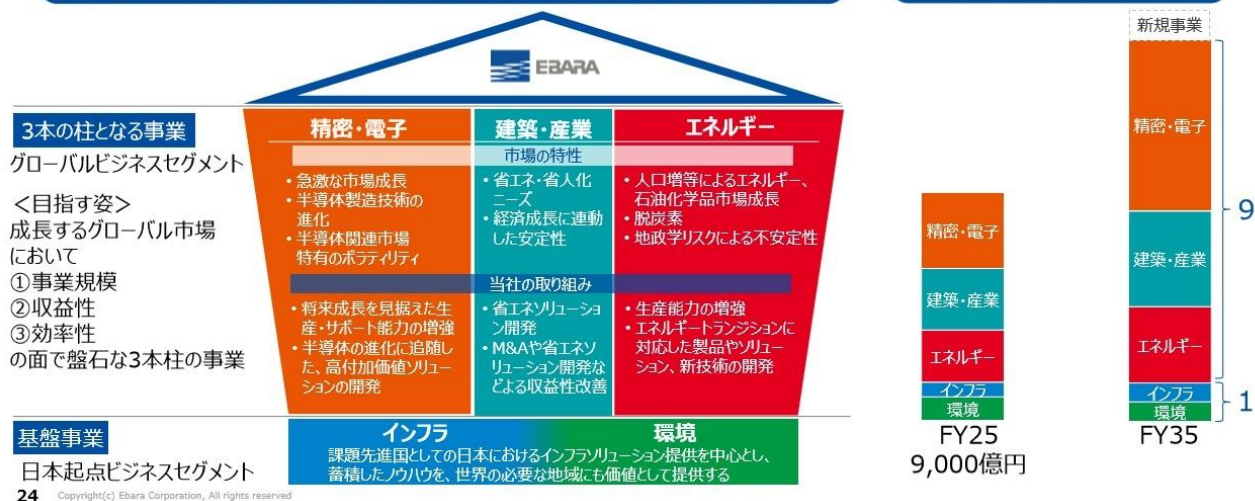
2035年にありたい事業ポートフォリオのイメージ



- 2035年にありたい事業ポートフォリオのイメージは、事業規模、収益性、効率性の面で盤石な3本の強固な柱により、「グローバル・エクセレント・カンパニーとしてのもう一段の進化」を実現し、その時々々の課題やニーズに取り組むことで、更に進化し続ける姿
- 建築・産業は、収益性・効率性の向上を重視したM&Aの展開などにより、3本目の強固な柱に成長させる

「グローバル・エクセレント・カンパニーとしてのもう一段の進化」を実現する事業ポートフォリオ

売上収益構成比イメージ



成長分野への投資を進めていく中で、10年先を見据えた2035年にありたい事業ポートフォリオのイメージになります。

右側の棒グラフは、売上構成比のイメージです。現在5セグメント事業の売上が9,000億円程度ですが、10年後には1.5倍から2倍の売上規模になることを目指しております。この成長を牽引する主要なドライバーは、現在グローバルに展開する精密・電子、建築・産業、エネルギー、この三つのセグメントです。これらが、将来の確固たる3本の柱となっていくイメージを持っています。

左側の五角形は、事業ポートフォリオのイメージです。各事業セグメントについて、市場の特性と当社の取り組みをご説明します。

3本の柱となる事業については、まず精密・電子は急激な市場成長を見せていて、半導体製造の技術も目覚ましく進化しています。一方で、以前に比べて小さくはなったものの、半導体特有の市場のボラティリティは依然として存在します。そのような中で、当社は将来の市場成長を上回る成長を見据えた生産体制の強化や、半導体の進化に追随した高付加価値ソリューションの開発強化に取り組んでいます。

エネルギーは、人口増を背景としたエネルギーや石油化学品市場の成長はあるものの、脱炭素化の潮流や地政学リスクといった不確実性も厳然としてあります。そういった中で、当社は製品やサービスの増強、エネルギートランジションに向けた新技術の開発に取り組んでいます。

建築・産業は、安定的に市場が成長していて、省エネ・省人化の継続したニーズがあります。ほかの二つの事業に比べて、収益性や効率性が若干劣る部分があるため、3本目の柱として省エネソリューション開発や M&A による付加価値の取り込みによって、ポートフォリオの安定化を図ります。

環境とインフラ事業は、基盤事業です。日本国内中心のビジネスですが、課題先進国としての日本におけるインフラソリューションを提供し、蓄積したノウハウを世界の必要な地域にも提供するという重要な役割を引き続き担ってまいります。

三菱電機の三相モータ事業を譲受

三菱電機FAシステム事業本部が国内で事業展開する三相モータおよびIPMモータ事業と、三菱電機のタイ子会社 Mitsubishi Electric Automation (Thailand) Co., Ltd. が事業展開するモータ、ポンプおよびダイカスト^{*1}事業を、荏原に譲渡することで2025年11月12日に合意

| | |
|---------------|--|
| 対象事業 | 三相モータ ^{*2} 、IPM ^{*3} モータ、ポンプおよびダイカストの設計・製造・販売・サービス |
| 譲受完了時期 | 2026年中予定 |
| 狙い | <ul style="list-style-type: none"> ■ モータに関する設計・開発力、技術ノウハウを取得することにより当社製品とモータ・回転制御技術を一体化した圧倒的な省エネソリューションを提供 ■ 日本・タイにおける生産体制を獲得・拡充することによりグローバル市場での成長を加速 |

^{*1} 金型に溶融した金属を高速・高圧で圧入することで、鋳物を大量生産する鋳造技術

^{*2} 3つの交流電流を動力源とする電動機

^{*3} Interior Permanent Magnet：永久磁石埋込式

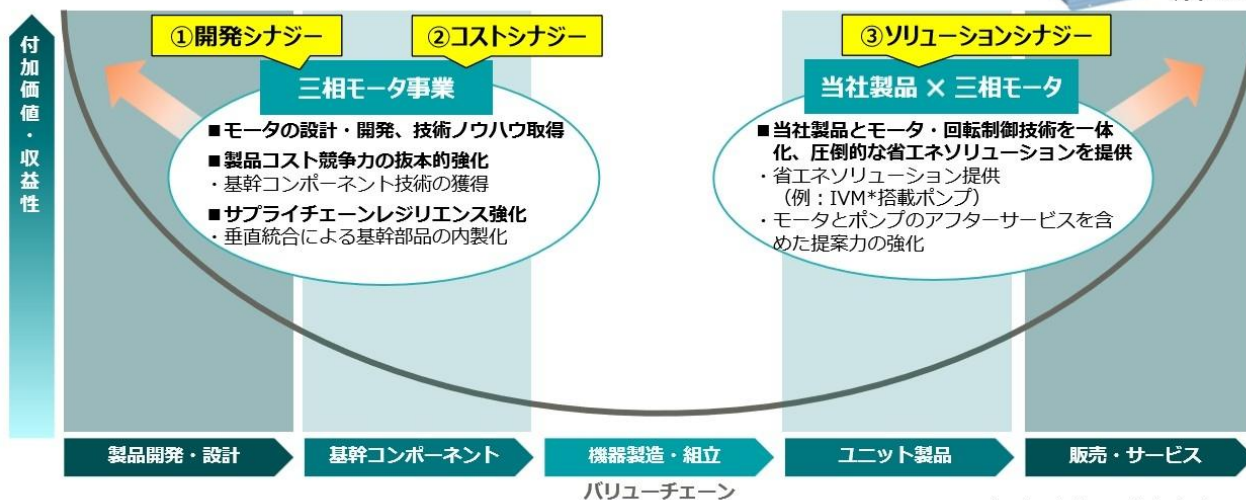
ここからは、建築・産業セグメントの収益性向上に寄与する戦略的な投資の一環として実施しました、三菱電機の三相モータ事業の譲受の概要についてご説明します。

対象事業は三相モータ、IPM モータ、ポンプおよびダイカストの設計・製造・販売サービスで、譲受完了は2026年中を予定しています。モータに関する技術を取得して、当社製品とモータ・回転制御技術を一体化した省エネソリューションの提供を企図しております。日本とタイにおける生産体制を獲得・拡充することにより、グローバル市場での成長を加速させてまいります。

- グローバルで産業機械に対する省エネニーズが一段と高まる中、建築・産業セグメントの省エネソリューションの提案力を強化・加速させるため、高付加価値領域であるスマイルカーブの両端を強化



(モーターイメージ)
当社製IVM搭載
ポンプ FSDV型



26 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

* IVM：インバーター内蔵PM（永久磁石）モーター

こちらのページでは、建築・産業セグメントに新たな機能として、三相モーター事業を取り込んだ意図をご説明させていただきます。

今回の M&A 案件によって、ポンプなどの産業機関に対する省エネニーズの高まりに対応して、建築・産業向け市場での成長基盤をさらに強化してまいります。

高付加価値領域であるスマイルカーブの両端、図の左側の製品開発・設計、基幹コンポーネントの領域と、右側のユニット製品、販売・サービスの領域を拡大して、省エネソリューションの提供能力を拡充させて、セグメントの収益性・効率性のさらなる向上を図るものです。こちらについては、来週 11 月 18 日に予定しています IR DAY で、建築・産業セグメントの事業説明セッションで詳細をご説明させていただく予定です。

私からの説明は以上になります。ありがとうございます。